

## 2018年度 七大戦 申し合わせ事項

1. 七大戦は原則として1日制とするが、事前に全大学の下承が得られれば、前日に種目の一部を行ってもよい。期日は、可能な限り7月の第3週または第4週の日曜日か土曜日とする。
2. 競技日程は原則として前大会と同様とし、変更する場合は、遅くとも開催日の1ヵ月前までに各大学に連絡し、七大学全ての承認を得ること。また、その後、運営の都合上、競技日程をやむを得ず変更する場合も、七大学全ての承認を得ること。
3. 女子の競技種目は100m、400m、800m、3000m、4×100mR、走高跳、走幅跳、砲丸投の8種目とする。種目変更は申し出があるごとに話し合い、七大学全ての意見が一致する場合においてのみ行うこととする。
4. 女子の400mまでの種目は、当日出場する人数が8名を超えた場合、予選・決勝を行う。決勝進出者は、2組3着+2で決定する。800m以上の種目は予選を行わない。
5. 決定事項引き継ぎのため、代表者会議には次期代表者を必ず出席させること。また、女子の代表者会議を男子と同じ場に設け、必ず女子代表者および次期代表者が出席する。但し、女子部員が不在の場合はこの限りではない。
6. 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は従来方式に準じ、エントリー用紙に希望する開始高さを記入しそれを基に代表者会議において決定する。
7. リレー種目のレーン順は、代表者会議の席上で抽選、決定する。
8. 予選通過のプラス2名の決定は記録を優先し、同記録の場合は着順によって決定する。さらに同着順の場合のみ抽選を行う。
9. 1種目の人数枠は、男子が各種目3名、補欠1名まで、女子が各種目2名、補欠1名までとする。
10. トラック競技予選の組分けについては、原則として記録順に均等に割り振った上、一つの組に同一大学の選手が2名以上重ならないように調整し、各組の条件に差をつけないこと。トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順の決定も公正を期して行う。
11. 代表者会議における申し合わせ事項の変更は全大学一致の上とする。
12. 選手の変更は、前日の代表者会議に申し出た場合に限り、補欠との入替を認める。
13. ナンバーカードは、北海道大学101~199、1001~1099、東北大学201~299、2001~2099、東京大学301~399、3001~3099、名古屋大学401~499、4001~4099、京都大学501~599、5001~5099、大阪大学601~699、6001~6099、九州大学701~799、7001~7099、以上のように固定制とし、男子は白地に黒文字で、女子は白地に朱文字で、各大学で大会前に準備する。ただし、3000m、5000m、5000mWについては専用のナンバーカードを着用する。このゼッケンは主管校が準備する。
14. 申し合わせ事項に不備、遺漏があれば、代表者会議で協議の上、訂正、追加する。
15. 代表者会議は大会前に行うこととし、その際に次年度申し合わせ事項を決定する。
16. 対校得点は、男子が各種目とも1位6点、2位5点、3位4点、4位3点、5位2点、6位1点とする。女子は各種目とも1位4点、2位3点、3位2点、4位1点とする。
17. 対校得点に関して、同点の場合は優勝種目の数で、それで決定できない場合は2位入賞者数で、以下同様に3位入賞者数、…で順位を決定。
18. オープン競技の開催、非開催、内容については主管校が決定する。
19. やむなく当日に棄権する場合には、必ず棄権届を提出すること。
20. エントリーについて、締切後の選手変更は一切認めない。万が一、変更があった場合には、当該選手の出場を認めない。
21. リレーメンバーについて、対校の部に出場する選手で2名に限り、事前にエントリーしていなくてもメンバーと交代することができる。また、対校の部に補欠としてエントリーされている者は、変更で正選手となった場合に、リレーメンバーと交代することが出来る。
22. 七大戦本戦への参加は、学部4年生以下の者に限る。学年は入学学年に（在籍年数-1）を加えたものとする。ただし、特例によりそれ以外の者でも出場が認められる場合もある。

【特例措置】2017年度：北大で仮面浪人をした北大生1名の出場を認めた。（理由）仮面浪人期間は実質的に大学生活を送っていたと言い難い。また、七大戦の時に在籍年数は5年となるが、部内での位置は4年生であったから。※この事例とその理由は参考程度に記したものであり、これが採決の根拠とは

なりえない。今後このような特例に関しては、各代での話し合いにより自由に決定する。

23. 主管校による記録審査は不要とする。エントリーファイルに記入する資格記録は、前年度4月1日以降の最高記録とする。エントリーファイルは、主管校の主務に送るのではなく、自校以外の六大学に送る。そして、スタートリストを作成する前に、各大学のエントリーを確認する期間を設ける。この時に、資格記録に対し指摘する場合は、指摘内容とその根拠、主将の署名が記されたファイルを作成し、それを七大学全体で共有する。実際にどの時期に、どのような方法で行うかは主管となる大学が提案する。
24. オープン、対校ともに招集漏れの場合、即刻棄権扱いとする。ただし、「複数種目出場届」を提出することにより、選手のミス以外による招集漏れを認める。また、これを提出した場合、代理人による招集を認め、この時はゼッケンの提示は必要としない。
25. 代表者会議では、申し合わせ事項については確認する程度にとどめ、レーン決めや次期幹部顔合わせなどを行うのみにする。ただし直接意見を交わしたい議題がある場合、それぞれの大学の意見を共有する時間を設ける。しかしこれは議論に決着をつけることを目的とはしない。
26. 話し合いの方法は各代に委ねるが、代表者会議以外の場合、例えば LINE などで議論をしっかりと重ねることを推奨する。ただしあくまで確定は代表者会議でのみ行うものとする。